



横浜市立永田台小学校

学校だより

6月号 令和8年5月29日 NO. 604



「あいさつには、チカラがある」

副校長 坂入 亮太

本校に着任して2年目となりました。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

令和8年度が始まって2か月が経ちましたが、永田台の子どもたちも新しい学年、学級での生活にも慣れてきた様子です。笑顔で朗らかにあいさつしてくれる子が増え、嬉しく思っています。

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」

毎日くり返されるこの一言に、実は大きなチカラがあると感じています。

以前、東アフリカのある地域で過ごしたことがあるのですが、そこには友達や家族だけではなく、道ですれ違う人全員に声をかける文化がありました。



東アフリカの沿岸にはマングローブの森が広がっています。

生活している村を離れ、作業を行うマングローブの森に向かう道の途中、すれ違う人は皆、見知らぬ相手である私に「Jambo (ジャンボ)」と声をかけてきます。「Jambo」は、スワヒリ語で「こんにちは」という意味です。その一言に、「今日もがんばってるか?」「生きていることに感謝しているか?」「明日の希望を感じているか?」という思いをこめ、あいさつを交わしながら人々はお互いを確かめ合い、励まし合っているのだとか。現地と一緒に生活していた仲間からその話を聞き、人々がお互いにエネルギーを渡し合っていることを感じました。

永田台小学校でも、子どもたちのあいさつに、私はいつも元気をもらっています。屈託のない笑顔で「おはようございます!」と、声をかけてくれるその姿は、こちらの気持ちまで明るくしてくれます。

一方、あいさつがなかなか返ってこない子もいます。そんなときは、「元気ではない理由があるのかな。」と、思うようにしています。体の調子が悪いのかもしれない、心がちょっとくたびれているのかもしれない——そう思って、「少しだけそっと気にかけるようにするとよいのかな。」と、思っています。

「大きな声で、はきはきとあいさつしましょう」とよく言われますが、その日の気持ちや体調、まわりの雰囲気によって、声の大きさや言い方は変わっていいと思います。大切なのは、声の大きさよりも、相手のことを思って言葉を向けること。お互いを思い合うことが、今日一日の元気、そして明日へとつなげていくチカラになっています。これからも、自分からあいさつして、自分も元気になりながら、相手のことを大切にしていきたいと思っています。